

科目名	建築構造計画	英語科目名	Structural Planning	
開講年度・学期	平成 25 年度・前期 (平成 25 年度・後期※)	対象学科・専攻・学年	建築学科5年 (建築学科4年※)	
授業形態	講義	必修 or 選択	選択	
単位数	2	単位種類	学修単位(15+30)h	
担当教員	横内 基	居室(もしくは所属)	建築学科棟3階	
電話	0285-20-2837	E-mail	yokouchi@oyama-cl.ac.jp	
授業の達成目標			授業達成目標との対応	
			小山高専の 教育方針	学習・教育 目標(JABEE) 基 準要件
1. 構造計画を行う上で留意すべきポイントを説明できる。			④	B-1 d
2. 幾つかのモデルプランについて、適切な構造計画を考えることができる。			②	B-3 d,h,i
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法				
達成目標1: 定期試験で評価(100 点)する。				
達成目標2: 授業時間中の討議内容およびプレゼンテーション、レポートの内容で評価(100 点)する。				
評価方法				
評価は、達成目標1が60%、達成目標2が40%の比重で行う。				
授業内容		授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間
1. 構造計画の意義と位置づけ		構造計画の意義と位置づけの明確化		4
2. 法規の制約、耐震基準		日本における耐震関連規定の把握		4
3. 設計荷重		設計用外力の内容を把握		4
4. 敷地・地盤・基礎		敷地・地盤・基礎に関する用語の把握		4
5. ブロック・平面・断面計画		各架構形式の特徴を復習		4
6. 構造部材の設計		各種構造の部材設計方法を復習		4
7. 耐震診断と耐震補強		各種耐震補強方法を調査		4
8. 意匠、設備、施工と構造計画		意匠、設備、施工と構造計画との関係を調査		4
9. 定期試験		構造計画を行う上で留意すべきポイントの総復習		4
10. 構造計画の実践(課題説明・予備調査)		現地調査項目の整理		4
11. 構造計画の実践(現地調査の実施)		現地調査データの整理・分析 現地要再調査項目の洗い出し		4
12. 構造計画の実践(現地調査の実施)		現地調査データの整理・分析		4
13. 構造計画の実践(構造計画の検討)		構造計画の検討 レポート、プレゼンテーションの作成		4
14. 構造計画の実践(構造計画の検討)		構造計画の検討 レポート、プレゼンテーションの作成		4
15. 構造計画の実践(プレゼンテーション)		構造計画の検討 レポート、プレゼンテーションの作成		4
自学自習時間合計				60
キーワード	企画、設計、用途、建築法規、構造システム、設備計画、コスト、施工、構造デザイン			
教科書	金箱温春:構造計画の原理と実践、建築技術			
参考書	1. 彰国社編「建築構造計画チェックリスト」、彰国社 2. 寺本隆幸「建築学入門シリーズ 建築構造の計画」、森北出版			
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目		鉄筋コンクリート構造、鋼構造		
現学年の関連科目		木構造、建築法規、建築耐震構造、建築施工		
次年度以降の関連科目				
連絡事項				
1. 建築の計画、設計、構造および設備など、各授業科目で学んだことを関連づけ、周辺知識を補強する科目である。 また、建築実務に役立つ知識を習得することに主眼をおいている。 2. 実際の建築設計を実施する流れに沿って、構造計画の方法を理解すること。 3. 予習・復習を確実に行わなければ、目標達成(=単位取得)は無理である。 ※平成 25 年度後期の学科棟改修工事に伴う授業変更により、前倒しにて本科目を 4 年生後期に受講させ、次年度 5 年生では、受講させない特別措置をとる。				
シラバス作成年月日	平成 25 年 3 月 30 日			